

国際新都心、世界に■観光大国狙う

都内の官民 仕事始め

東京都内の自治体や企業の多くで2016年の仕事始めとなった4日、首長や社長らが4年後に迫った五輪への意欲などを語った。舛添要一都知事は職員向けの新年挨拶で「全世界の目が東京に集まる。4年間、大変な

思いで頑張らないといけない」と強調。森ビルの辻慎吾社長は「国際新都心形成への取り組みを世界にお披露目する絶好のチャンス」と表明した。舛添知事は19年にラグビーワールドカップ、20年に五輪・パラリンピック

と大きな国際大会が続くことに触れて「こういう機会是我々が生きていく間にもう二度とない。努力した成果は国際社会がちゃんと見てくれると思っていたきたい」と仕事への心構えを説いた。

五輪に向けた取り組みは官民それぞれで進む。大田区は訪日観光客の急増に対応するためマンシ

ョンなどを活用する「民泊」の条例を1月末にも施行する。松原忠義区長は賀詞交換会で「地域経済の活性化や、区の魅力をさらに知ってもらう機会となる。最善の努力をしていく」と話した。

森ビルは五輪の幹線道路となる環状2号が通る虎ノ門ヒルズ周辺の開発を推進。辻社長は「東京の底力を世界に強く印象付けたい」と意気込む。観光電車の運行やグランドプリンスホテル赤坂跡の複合施設開業を控える西武ホールディングスの